

## 輝け！シン尾花沢中

第193号

令和8年

2月27日

長根の山の ふもとはら 遠いゆかりの おもだかの

## みんなで手をつなぐ～保健体育・フォークダンスを参観して～

昨日、校長室で仕事をしていると体育館から懐かしいメロディが流れてきました。

「あ！これは『マイムマイム』だ。懐かしいなあ。昔、勤務していた学校の運動会で『ジェンカ』を生徒と一緒に踊ったとき、あまりに楽しくて必死にジャンプしすぎて筋肉痛になったなあ」などと思っていたら、「ヘイ、ヘイ、ヘイ」と男子の掛け声が聞こえてきました。

「あれ？マイムマイムってこんな勇ましい掛け声？何事？」と思って体育館に行ってみると、3年1組の生徒が楽しそうに踊っている様子が目に飛び込んできました。



保健体育のダンスの授業のようです。

勇ましい男子の掛け声は、まるで部活動のときの声出しのよう。尾中生は、新たなジャンルのフォークダンスを創り出していました。

授業を終えて教室に戻る生徒に、感想を聞いてみると興奮気味に答えてくれました。

「最高！イエーイ！楽しかったです！」

「やっぱ、楽しいっす！」

「掛け声がおもしろかった」

「声が大きくて圧がすごい」

「まるで、運動会の応援のようでした」

最後に、話してくれた生徒の感想が特に印象に残りました。

「以前は、みんなで手をつなぐなんてできませんでした。でも、今日は手をつないでいて『みんな仲よくなったんだなあ』と改めて思いました」

あと数日で離れ離れになってしまう一抹の寂しさがそこにはありました。

どんな活動にも楽しくまじめに一生懸命に取り組むことができる尾中生だからこそ、生徒一人ひとりに名残惜しい気持ちが生まれるのでしょう。

そんな尾中生と巡り合えたことに幸せを感じつつ、私自身も尾中生との日々を大切にしていこうと改めて思ったところです。

「マイムマイム」の歌詞は旧約聖書の一節「あなたたちは喜びのうちに救いの泉から水を汲む」の一節から採用されたそうです。これは、エジプトで奴隷にされていたユダヤ人たちが「神から約束された地」である現在のイスラエルに戻り、乾燥した荒れ野で水源を掘り当てて歓喜している様子を表現したものだそうです。

※「mayim」＝「水」、「be-sasson」＝「喜びのうちに」

【文責：校長 工藤雅史】